

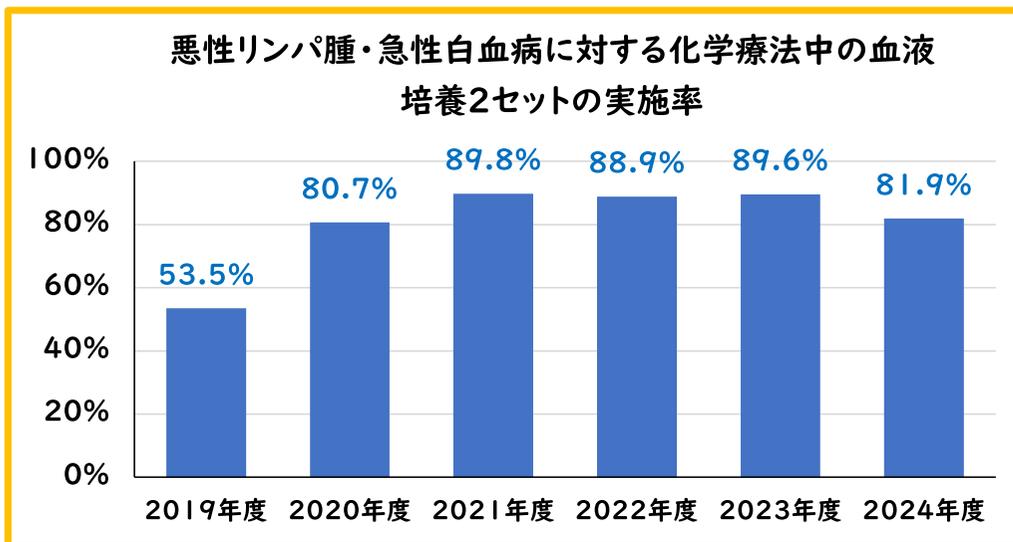
7 悪性リンパ腫・急性白血病に対する化学療法中の血液培養2セットの実施率

血液内科

◆解説◆

血液悪性腫瘍に対する化学療法後の好中球減少期は、発熱性好中球減少症などの感染症対策が重要です。発熱時に提出する血液培養検査は2セット採取が推奨されています。臨床現場での実施率の把握および向上を目指しています。

◆当院の実績◆



◆自己点検評価◆

血液培養2セット実施を臨床指標項目と設定し、その向上への取り組みました。

2024年度は血液培養ボトルの出荷調整があり前年度に比し10%ほど実施率が低下しましたが、出荷調整解除後は2セット採取を基本として引き続き取り組みを継続しています。

◆定義◆

血液内科で悪性リンパ腫・急性白血病に対する化学療法中の患者で血液培養を採取する患者(分母)のうち、血液培養2セット採取数(分子)から求めた採取率